

慶応元年九月十二日より慶応元年九月十三日まで

P8311316 right

某(外老人来り)面し帰航の顔合等咄し聞る、シーボルト来り、一昨申聞し書面案文持参、源一に為受取不面して返す、書面は同人へ澤を命らる度く、英蘭にて濱外兩人、御買上げ取斗候器械類見様(朝令の義)ウエルニーへ縷々申談じ、且右の買上の義、引受周旋いたし候、蘭人インゼテル

某バンク某兩人明日当舎へ来り候、趣に付、猶同人共へウエルニー談義および積り、澤太郎左橋本(釜)明朝蘭へ帰り候趣、夕餐を勧め別を告ぐ、且太郎左衛門へは、合葉製器械御買上方取扱の義、相達し其段伝替取締内田恒次郎へ書翰□太郎左衛門へ渡し、並右の買上げ代凡積り六万(キュルデン、フランク六千)、一万二千ドルを渡し、濱太釜二名の受取書取し(右兩人の帰りを見送り候趣にて三郎同車よりて行けり)、尤器械図代料書等は、猶

巨細取調来月中旬頃迄に差越積り也、客夜、家書待尽日嘸呻悶極
翻如無悶人唯有故園一輪月夜深来照晴愁身

P8311316 left

十三日亥 陰雲夕晴

昨約の蘭人兩名来り面す、是迄の周旋の謝等申述べ、且ウエルニーへ為引合候(其間欽席)、シーボルト

昨申聞し如く来り、楽太をして面せしめ同人故意を以渠の需に応じ兼て可申段申□せし処、態然らば書面案は自分旅宿へ返呉べき旨、申聞帰り候旨、濱五郎儀自分扱の御用筋有し趣にて前両蘭人旅宿へ行けり、達作出行、明日ブレスト□途に付小遣シャル本夕同所へ先にして行く、謾吟、幽居為詩瘦奇句 又驚人富不■肥富貧豈
凍餒貧榮枯一場夢通塞百年身排悶毫無悶呼杯对碧嶙

本日入本夕は家郷十三本賞の月のある事、偶々談話に及びて初て思出たり家、
中狗猿の別なる自から感せり、詩奥にお□るの段あらず

*1:

()内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【文字判読不可】、■は、文章の一部に汚れあり、虫食いにより文字が無い等です。